

相模原市立博物館活動評価書

(評価期間：平成 29 年度～令和元年度)

令和 3 年 8 月

相模原市立博物館

【目次】

I	相模原市立博物館活動評価の総括 (評価期間：平成29年度～令和元年度)	1
II	博物館の活動評価に到るこれまでの経緯	4
III	相模原市立博物館活動評価	
	事業評価シート(定量評価)	7
	事業評価シート(定性評価)	8

I 相模原市立博物館活動評価の総括 (評価期間：平成29年度～令和元年度)

○平成20年6月に「博物館法」が改正され、博物館の運営状況の評価やその情報の提供等を行うこととされた。このため当館では、当館の使命及び重点目標等に基づき、定量評価及び定性評価の手法で、博物館協議会による有識者評価を経て、平成23年度～25年度評価、平成26年度～28年度評価に引き続き、第3回目となる平成29年度から令和元年度までの活動について点検・評価を行った。

【当館の使命】

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

【評価項目】

- 1 展示教育普及事業の推進
- 2 関連施設・機関との連携
- 3 市民との協働による博物館活動の展開
- 4 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

平成29年度～令和元年度における活動評価全体総括

- 市民と歩む博物館の活動理念を実践し、地域に根差した特色ある活動を展開していることが市民及び有識者から評価された。
具体的には、JAXA宇宙科学研究所と連携した多彩な宇宙教育普及事業の実施をはじめ、図書館や公民館など関連する施設との連携、小中学校をはじめとする学校への学習支援、さらには博物館全体の教育普及事業及び各専門分野でのボランティアとの協働による活動の充実などである。
- 博物館の活動についてネットメディアなどを活用した情報発信は活発に行われている一方で、展示・教育普及活動の市民への周知などは行き届いていない可能性があることについて指摘され、ターゲットを明確にしたきめ細かい広報活動のさらなる充実が求められている。

こうした評価を真摯に受け止め、今後とも改善を積み重ねながら、さらに地域文化を継承・発信する拠点としての博物館を目指して活動していく。

【定量評価】

- 前回評価期間の平成 26 年度からの数値を見ても、活発な活動を維持してきたが、評価期間終盤における自然災害や新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館により様々な事業が中止となり、今後はこうした事態も想定する必要がある。そうした中で、市民の学習機会の場を維持し、博物館として状況に応じた情報の発信や事業の展開を模索していかなくてはならないと考えられる。

【定性評価】

1 展示教育普及事業の推進（8～11 ページ）

では、「企画展示の実績と常設展示リニューアル」「宇宙教育普及事業の展開」について評価を行った。

有識者意見からは、質の高い学芸活動や入館料無料が維持されている点などから多くの入館者数を得ている点や、引き続き市民とともに歩む博物館活動を進めている点などが評価された。また、隣接する JAXA との連携は地域的な特色として今後もさらなる充実が求められている。

一方で、開館から 25 年を経て今なお常設展示の全面リニューアルが実現できていないことや、多様なニーズに応える展示や PR の手法を検討することが課題として挙げられる。

2 関連施設・機関との連携（12～16 ページ）

では、「博物館ネットワークの推進」「学校への学習支援」「図書館・公民館等との連携」について評価を行った。

有識者意見からは、関連する施設との連携や講師派遣等の事業支援、連携展示などが進められている点について評価された。また、津久井地域にある所管施設については広報活動の充実や利用促進をはかることが求められた。また、学校との連携に不可欠である指導主事の配置の復活についても課題として挙げられた。

3 市民との協働による博物館活動の展開（17～18 ページ）

では、「市民の会の活動の展開」「市民学芸員の活動の展開」について評価を行った。

有識者意見からは、多方面にわたる市民との協働が地域博物館の実践的活動として存在感を増していることが評価された。

課題として、会に参加する者が高齢化・固定化して人材の確保が難しくなっている点や、活動範囲の広がり学芸員の負担増に結び付く可能性についても指摘され、市民の生涯学習の場として円滑な活動支援ができるように体制を見直していくことも必要とされた。

4 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動（19～20 ページ）

では、「資料整理及び展示、調査成果の公表」「様々なメディアを用いた情報発信の取組」について評価を行った。

有識者意見からは、増加する館収蔵資料の整理作業を博物館と市民とで協働で実施し、こうした博物館活動の様子を新しいメディアにも対応して情報発信している点についても評価された。

また、博物館の学芸活動の基本を支える学芸員の調査研究活動の環境整備について、改めて充実を図ることが提案された。

II 博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯

平成 20 年 6 月 博物館法改正

博物館法条文

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第九条の二 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

平成 21 年 12 月 第 8 期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」を諮問

第 8 期博物館協議会（任期：平成 21 年 11 月 20 日～平成 23 年 11 月 19 日）において、博物館評価の先進事例や当館のこれまでの活動状況をもとに、評価のあり方について検討が行われた。

平成 23 年 11 月 第 8 期博物館協議会による答申「活動状況に関する評価計画の策定」

評価のあり方について答申されるとともに、相模原市立博物館の使命として次のとおり定められた。

○地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること

○主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること

また、重点課題として次の項目が挙げられた。

★常設展示のリニューアルと博物館ネットワーク計画の推進

★関連施設・機関との連携

★市民との協働による博物館活動の展開

平成 24 年 2 月 第 9 期博物館協議会に諮問「活動状況に関する評価計画の策定」について

第 9 期博物館協議会（任期：平成 23 年 11 月 20 日～平成 25 年 11 月 19 日）において評価計画及び具体的な評価の手法について検討を行った。

平成 25 年 11 月 第 9 期博物館協議会答申「博物館の活動状況に関する評価について」

同答申において、具体的な実施方法について次のとおり策定された。

- 定性的評価と定量的評価を組み合わせる。
- 定量的評価は、博物館における一般的な数値である入館者数ばかりでなく、特に当館の重点課題の一つである市民協働に資する活動等に係わる数値について、目標値を設定した上で実施する。
- 定性的評価は博物館の使命を達成するための当面の重点課題に対して行う。
実施の手順に際しては、重点課題を達成するために実施する事業について、まず館内部での企画内容とそれへの達成度に対する自己評価を行い、それに対する利用者・参加者側の評価をアンケート等の結果を基に示し、その上で**博物館協議会による有識者評価を行って**、全体的な評価としてまとめる。なお、協議会による評価は、会議の開催日程等、時間的な制約もあるため、効率的な実施に務める。

平成 25 年 11 月 第 10 期博物館協議会による有識者評価開始

第 10 期博物館協議会（任期：平成 25 年 11 月 20 日～平成 27 年 11 月 19 日）において、新・相模原市総合計画前期実施計画期間である平成 23 年度から平成 25 年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を実施した**。同時に、利用者統計や来館者アンケート、ボランティアによる評価等など、評価全体の方向性について検討を行った。

平成 26 年 11 月 平成 23 年度から平成 25 年度までの活動評価を作成

平成 27 年 3 月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

平成 27 年 11 月 第 11 期博物館協議会による有識者評価開始

第 11 期博物館協議会（任期：平成 27 年 11 月 20 日～平成 29 年 11 月 19 日）において、新・相模原市総合計画中期実施計画期間である平成 26 年度から平成 28 年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を実施した**。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★常設展示のリニューアルと宇宙教育普及事業の展開
- ★関連施設・機関との連携
- ★市民との協働による博物館活動の展開
- ★博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動

平成 29 年 11 月 平成 26 年度から平成 28 年度までの活動評価を作成

第 12 期博物館協議会による有識者評価開始

第 12 期博物館協議会（任期：平成 29 年 11 月 20 日～令和元年 11 月 19 日）において、

平成 29 年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、有識者評価を実施した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

平成 30 年 3 月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和元年 11 月 第 13 期博物館協議会による有識者評価開始

第 13 期博物館協議会（任期：令和元年 11 月 20 日～令和 3 年 11 月 19 日）において、平成 29 年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、有識者評価を実施した。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

令和 3 年 3 月～7 月 平成 29 年度から令和元年度までの活動評価を作成

定量評価資料(平成26年～令和元年度)

事業評価シート(定量評価)

	項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	26-28	29-元	6年平均
								3年平均	3年平均	
①	入館者数	126,631	132,201	125,194	137,996	136,450	138,573	128,009	137,673	132,841
②	プラネタリウム観覧者数	51,816	53,432	54,814	59,245	56,530	55,195	53,354	56,990	55,172
③	企画展観覧者数	66,370	71,865	68,283	72,876	73,069	78,289	68,839	74,745	71,792
④	講座・講演会参加者数	11,344	10,114	12,167	16,941	11,841	8,962	11,208	12,581	11,895
⑤	講座・講演会数(延べ回数)	39(127)	36(116)	50(213)	34(178)	45(194)	42(128)	41.7(152.0)	40.3(166.7)	41.0(159.3)
⑥	職員派遣(外部講師)数	69	82	80	66	79	70	77	72	74
⑦	市民の会数(登録者数)	14(295)	13(256)	12(284)	11(265)	12(276)	12(250)	13.0(278.3)	11.7(263.7)	12.3(271.0)
⑧	市民の会延べ参加者数	2,886	2,389	2,487	2,702	2,876	2,080	2,587	2,553	2,570
⑨	ホームページアクセス数	231,415	577,236	594,049	617,530	594,620	508,070	467,567	573,407	520,487

⑦と⑧は微減であった。他は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、微増あるいはほぼ横ばいであった。

①	入館者数は、天候、JAXA関連のイベントの日数などにより前後はあるが微増傾向で6年間の年平均は約133,000人であり、平成29年度からの3年間はこの平均を上回っている。特に令和元年度は約1か月間休館したにもかかわらず、この6年間で最も多くなった。(令和元年度は新型コロナウイルス感染症・令和元年東日本台風の影響により26.5日間休館)
②	プラネタリウム観覧者数は、子どもに人気のキャラクターの全天周映画や取り上げるテーマ等により前後はあるが、微増傾向で6年間の年平均は約55,000人、29年度からの3年間は約57,000人であった。(令和元年度は新型コロナウイルス感染症・令和元年東日本台風の影響により29.5日間投影中止)
③	企画展は、年間6本程度開催しており、全体的に観覧者数は微増傾向である。6年間の年平均観覧者数は約72,000人であり、令和元年度は約78,000人と多くの方に来場いただいた。(令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1本が中止)
④ ⑤	講座参加者・講演回数は、6年間の年平均で概ね参加者はほぼ横ばいの約12,000人、講座数は年度により差はあるものの、29年度からの3年間では平均40回以上、延べ約37,700人に学びの機会を提供できた。(令和元年度は、新型コロナウイルス・令和元年房総半島台風・令和元年台風19号の影響により15事業中止)
⑥	公民館等からの依頼で講師として職員派遣を行った回数は、6年間ではほぼ横ばいで、29年度からの3年間では平均72回である。
⑦ ⑧	市民ボランティアとして活動している市民の会のうち、団体数は6年間で2減、登録者数、参加者数とも減少傾向にある。
⑨	ホームページアクセス数は、6年間の年平均が約52万回で令和元年度はアクセス数がやや減少した。

(参考)6年間(平成26年度～令和元年度)の推移から見る今後の取組

これまでの6年間で数値的にも活発な活動状況を維持してきたが、令和元年度には台風19号の接近に伴う休館や行事の中止、令和元年度末から現在までの新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館や様々な事業の中止があり、今後はこれまでの統計的な数値が参考にならない運営状況が継続するものと考えられる。そうした中で、市民の学習機会の場を維持し、博物館として状況に応じた情報の発信や事業の展開を模索していかなくてはならないと考えられる。特に、休館期間に実施した展示解説の動画配信や、企画展のオンライン講演会の試みは、遠方からの利用など新たな利用者層へのアプローチも期待できる。一方で、博物館として実物資料を扱う本来の活動をどのように行っていくかも検討を重ねていく必要があるだろう。

相模原市立博物館の活動評価（定性評価）

1 展示教育普及事業の推進

1-1 企画展示の実績と常設展示リニューアル

【自己評価】

- ・企画展示は、平成 29 年度は考古分野、地質分野、天文分野の企画展、学習資料展、歴史・民俗分野共同の収蔵品展、実習生展を開催し、観覧者数は 72,876 人であった。また、入館者数全体の中で、企画展等の来場者数の割合は平均して 52.8%であった。
- ・平成 30 年度は考古分野、歴史分野、天文分野の企画展、学習資料展、民俗分野の収蔵品展、実習生展を開催し、観覧者数は 73,069 人。入館者数全体の来場者数の割合は平均 53.6%であった。
- ・令和元年度は考古分野、生物分野、天文分野の企画展、学習資料展、歴史・天文分野と実習生展の合同展示を開催し、観覧者数は 78,289 人であった。入館者数全体の来場者数の割合は平均 56.5%であった（詳細は別表「定量評価資料」のとおり）。
- ・それぞれの企画展においては、記念講演会や展示解説、ワークショップ、クイズラリーなど様々な関連イベントを実施した。
- ・数値からもわかるとおり観覧者数が漸増傾向にあり、多くの市民に観覧いただく結果となった。
- ・常設展示のリニューアルは、平成 30 年度に各展示室の概説等の英文解説パネルを設置した他、市民学芸員による展示検討会を実施し、養蚕関連資料の入れ替え、ミニ展示の継続、キャプションの修正などを市民の視点から行った。

【市民による評価】

（企画展アンケートより）

- ・初めて見る資料ばかりでとても興味深かった。
- ・広く、静かでゆっくり見られた。映像にはそれぞれベンチがあれば良い。
- ・孫と楽しく話しながら見ることができた。自分たちが使っていた道具が博物館に展示されているのが不思議な感じがした。
- ・この博物館の企画展は毎回とても工夫されていて興味深く拝見している。今回の展示でこんな身近に野生動物がいることを知り、とても驚いた。
- ・もっと自分が体験したりできることを増やして欲しい。また来たい。

【有識者意見】

- ・入館者数が減少傾向にある博物館が多い中、開館から 25 年を経た今日においても年間 13 万人台の入館者を確保している点を高く評価したい。その背景には、企画展示をはじめとする質の高い学芸活動が展開されていること、入館無料の原則を貫いているという要因が大きいと考える。
- ・市民学芸員によるコーナー展示や、市民目線による常設展示のリニューアルについては評価できるものの、その一方で開館 25 年を経て、未だに常設展示の全面リニューアルが実現されていないのは大変残念なことで、リニューアルは利用者からの期待も

大きい。博物館の規模・活動に見合った、より多くの財政支出が望まれる。博物館側でもリニューアルに向けたビジョンを描いておくことは必要であろう。

- ・今後は展示解説文の外国語表記の必要性の高まりや、若い世代へ向けた動画やゲーム・クイズ形式の展示解説などの参加型や対話型手法の需要も高まると考えられる。

1-2 宇宙教育普及事業の展開

【自己評価】

- ・平成 29 年から令和元年度においては、毎年 JAXA 宇宙航空研究開発機構との連携企画展を実施し、多くの来館者を得た。
- ・毎月天文・宇宙関連の事業を実施する「さがみはら宇宙の日」においては、はやぶさ 2 トークライブや JAXA 相模原キャンパス特別公開など、JAXA と連携できる強みを活かした事業を展開することができた。
- ・星空観望会や夏休み親子天文教室など、独自の普及事業を継続的に実施することで、定常的な学びの機会を提供した。他にも市内の大学や商店街等との連携事業や中央地区の自治会との共催事業も引き続き実施し、地域との連携を強めるとともに宇宙教育普及事業に活かすことができた。
- ・平成 30 年 2 月 JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟のオープンにあたっては、博物館の紹介及び資料展示スペースを設置していただき、土器等を展示するなど分野を超えた展示連携を行うことができた。また、2 館をつなぐスタンプラリーの設置や連携企画展開催時の資料の借用など、相互利用の推進を図ることができた。
- ・プラネタリウム事業においては JAXA の協力のもとで進めた新番組の制作・投影のほか、委託業者からの提案事業として始まった「プラネタリウムコンサート」や無料で観覧できるミニ番組「おためしタイム」を実施するなど、多角的な視点から宇宙教育の普及を目指す事業を展開することができた。

【市民による評価】

(企画展アンケートより)

- ・宇宙は凄い。まだ知らないことが沢山あり面白かった。
- ・毎度、企画内容に感心・感動している。多くの子どもたちに伝えたい。
- ・来る度に展示物が変わっているのととてもおもしろく、興味を持って見られる。
- ・これからも見て学んで楽しめる、宇宙に関する様々な企画をお願いしたい。
- ・これからも身近な不思議について展示をお願いしたい。子どもも飽きずに見ることができた。

(「さがみはら宇宙の日」より)

- ・相模原市に住んでいる者として、同じ市内に JAXA のキャンパスがあり、この展示物のような探査機を作ったり研究されたりしているのだと思うととても誇らしい。
- ・自宅の近くに宇宙を身近に感じることができる博物館があり、とても嬉しい。

(プラネタリウムより)

- ・解説がとてもわかりやすく大変楽しく見ることができた。また来たい。
- ・毎回、様々な角度からわかりやすく解説しているので、興味深く学ぶことができる。
- ・プラネタリウムと企画展のテーマが同じでよかった。

【有識者意見】

- ・隣接する JAXA と連携し、「はやぶさ」や「はやぶさ 2」に関連した宇宙科学事業を実施できるのは、他の博物館にはない大きな特徴であり、メリットでもあると考える。今後も、より連携して相模原の特色として打ち出しながら宇宙教育の普及活動や広報活動を推進すべきである。
- ・JAXA 相模原キャンパス内にある宇宙科学探査交流棟（平成 30 年オープン）との連携展示なども試みられ、双方で所蔵する資料の相互展示の更なる活発化にも期待したい。
- ・「小惑星探査機はやぶさ」や、「はやぶさ 2」が今後も注目を集めると考えられることから、関連の資料について企画展示だけでなく、常設展示に向けた努力も期待したい。
- ・プラネタリウムや全天周型映画の活用は宇宙科学教育の理解に極めて有効な視聴覚的教育手段と思うので、今後もより多くの方々に見てもらおう努力をお願いしたい。

2 関連施設・機関との連携

2-1 博物館ネットワークの推進

【自己評価】

- ・博物館を中心に市域の関連施設との情報ネットワークを活用し、幅広く活動を展開した。
- ・博物館所管施設である吉野宿ふじや及び尾崎罌堂記念館で、地域の特色を生かした普及事業の実施を地域の団体へ委託した（吉野宿ふじや活性化事業、尾崎罌堂記念館展示・普及事業）。
- ・旧石器ハテナ館と協働でクイズラリーを実施したほか、勝坂遺跡や相模川ふれあい科学館に展示協力を行った。

活動の概要 () 内は、関連事業を含む延べ参加者数

講師派遣等		
H29	66 件 (3,960 人)	
H30	79 件 (3,822 人)	
R 1	70 件 (3,759 人)	
尾崎罌堂記念館展示・普及事業 () 内の数字は事業開催中の来場者数		
H29	3 事業 (354 人)	企画展「尾崎行雄（罌堂）ゆかりの人々」、近現代史講演会（2 回開催）
H30	3 事業 (287 人)	明治 150 年&尾崎罌堂生誕 160 年記念展「資料で見る明治期の尾崎行雄」、近現代史講演会（2 回開催）
R 1	5 事業 (959 人)	ミニ企画展「尾崎行雄と歴代天皇」、現代史講演会（2 回開催） ※委託事業以外に、博物館主催事業として尾崎罌堂関係資料公開を実施した（2 回実施）。
吉野宿ふじや活性化事業 () 内の数字は事業開催中の来場者数		
H29	3 事業 (1,911 人)	「藤野の養蚕展」、「藤野の石造物展」、「藤野のおひな様展」
H30	4 事業 (2,732 人)	「吾が心の山ー山岳写真家三宅修の踏み跡」、「藤野の昔の産業展」、博物館出張展示「宇宙展」、「甲州道中（相模湖・藤野・上野原）見どころ展」、「甲州道中のおひな様展」
R 1	3 事業 (1,983 人)	「昭和の娯楽展」、「藤野ー相模川と人々の暮らし展」、「児童文学作家・丘修三展」 ※「甲州道中ー相模湖・藤野・上野原のおひな様展」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

【市民による評価】

（来館者アンケートより）

- ・尾崎罌堂について名前程度しか知らなかったが、尾崎罌堂記念館の企画展で偉大な業績を知ることができた。

- ・尾崎罌堂記念館の存在や罌堂の偉大な業績が知られていないので、PRが必要。

【有識者意見】

- ・所管施設である「尾崎罌堂記念館」と「吉野宿ふじや」については、緑区の交通の便に恵まれない立地ということもあり、市外のみならず市内でも知名度が低いように思われるため、一層PRに努める必要がある。事業参加者数から見ると普及活動の成果は出ていると言えるが、一層の活性化を図るためには、両館にも専従の学芸員が配置されることが望ましい。
- ・博物館及び所管施設、さらには相模川ふれあい科学館など、市内の関連施設と連携したスタンプラリーやクイズラリー等、市域全体での事業を試みることも検討されたい。

2-2 学校への学習支援

【自己評価】

- ・学校教育支援に対応した学習資料展を毎年開催している。平成 29 年度は、日常の学校や家庭での生活資料を中心に展示した。平成 30 年度は、電化製品などの道具の変遷や、ふるさといろはかるたで見る風景の移り変わりなどを展示した。令和元年度は、1964 年の第 18 回東京オリンピックの頃に使われていた生活道具を展示した。
- ・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習に取り組み、平成 29 年度は 375 件、平成 30 年度は 438 件、令和元年度は 383 件の利用があった。博物館職員の小中学校・高校・大学への講師派遣も実施しており、平成 29 年度は 26 件、平成 30 年度は 25 件、令和元年度は 21 件の依頼に対応した。また、中学生の職業体験及び、高校生や大学生のインターンシップを受け入れている。
- ・博物館資料の貸出しキットの学校への貸出しにも引き続き積極的に取り組み、平成 29 年度は 33 件、平成 30 年度は 27 件、令和元年度は 18 件の利用があった。平成 29 年度の「学校と博物館の連携を進める研究会」では、貸出しキットを用いた授業での実践事例として、指導プランの作成を進め、研究会として報告「学校教育における博物館資料の利用について」をまとめた。
- ・博物館と学校の間で学習活動の調整や支援を担っていた指導主事は、平成 29 年度から配置がなくなるなど、博物館体制の変化があった。本来、博物館と学校との間で学習支援などのコーディネーターの役割を担う人材の配置が望まれており、学校との連携の停滞を招くことがないように、博物館が担うべき学習支援にこれまで以上に取り組んでいくことが課題として挙げられる。

【市民による評価】

(学習投影・展示見学者アンケートより)

- ・天体の移動は学校では絶対に見ることができないので、子どもの理解が深まってよかった。
- ・星の観察方法など、学習内容が多く含まれていてよかった。
- ・学校で学習した内容の実物を博物館で見ることにより学習の振り返りをするのができてよかった。
- ・実物を見たり、触れたりすることによって、子どもたちは当時の暮らしをイメージすることができた。
- ・ワークシートのクイズが難しいので、展示物をしっかり見たら正解できるクイズを作成してほしい。

(貸出キットを利用した教員からの意見)

- ・実物を見て学習できたので子どもの学習意欲が高まった。
- ・体験を通して自分の考えを深めることができた。
- ・実物に触れることにより具体的なイメージをつかむことができた。

【有識者意見】

- ・開館以来、博学連携に力を入れており、博物館の存在を知り理解を深める機会として、

また、学校への学習支援は将来に向けた来館者につながることから、博物館活動で重要なものであると考える。そうした中、平成 29 年度以降、指導主事の配置がなくなってしまったことは憂慮すべきことであり、活発な博学連携を進める上では、指導主事配置の復活が望まれる。

- 学習資料展は子どもの興味関心を高める内容が多く、学校で学習した内容を補充・深化させる上で参考になる博物館ならではの支援と評価できる。一方で、今の小学生の親世代の子ども時代はもはや平成期となるので、平成期の資料収集・展示にも努める必要があるだろう。
- 博物館職員の講師派遣では毎年コンスタントな依頼数に応じている点も評価できる。豊富な資料や専門的な知識を有する博物館と学校教育との連携はとても重要であり、小中学校だけでなく高校等とも引き続き連携を深めていけるよう取り組んでいく必要がある。

2-3 図書館・公民館等との連携

【自己評価】

- ・教育・普及活動の一環として、公民館及び図書館、環境情報センター、福祉施設等で実施された講座・観察会などに、依頼に応じて学芸員の講師派遣を行っている。
- ・派遣依頼件数は、令和元年度が70件、平成30年度が79件、平成29年度66件で、毎年4,000人弱の聴講者に市の自然・歴史や博物館について理解を深めていただいている。
- ・その中でも、社会教育施設等への派遣は多く、公民館のほか、図書館などの公共施設での教育・普及活動に積極的に対応している。
- ・特に、同じ淵野辺駅を最寄りとする市立図書館とは、企画展の出張展示の開催、関連ブックリストの作成・配布、貸出期限票裏面での企画展紹介などを協力して行い、相互連携による来館PRに取り組んでいる。
- ・また、市教育委員会文化財保護課等と協働で埋蔵文化財関係の調査・成果発表会などを開催している。
- ・環境情報センターにおいては環境セミナーへの講師派遣、自然環境観察員制度による全体調査、分科会調査などに協力し、専門の立場からアドバイス等を行った。

【市民による評価】

- ・公民館の講座などでのアンケートでは、どの分野においてもこれまで知らなかった相模原のことを知ることができたとの好評意見を参加者から多くいただいている。
- ・学芸員の講師派遣や他施設での出張展示をきっかけに博物館のイベントに来たという声を来館者から聞くこともある。(他機関との連携も効果的である)

【有識者意見】

- ・生涯学習社会の発展のためにも、公民館や図書館、さらには福祉施設などとの連携は必要と考えられる。そうした施設からの講師派遣依頼についても、学芸員の高い専門性が買われてのことなので、積極的に対応すべきである。
- ・市立図書館と連携しての出張展示やブックリストの作成は、興味深い取組である。淵野辺駅から博物館への動線確保の上でも、更なる推進に期待したい。
- ・相模原市は地域外からの転入者も多く、地域の歴史を知ることから地域を知る入り口になると思われる。社会教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携し、攻めの博物館活動を推進してほしい。

3 市民との協働による博物館活動の展開

3-1 市民の会の活動の展開

【自己評価】

- ・現在、各分野における専門領域の活動や一般の普及事業に携わる市民の会は、平成 29 年度は 11 団体、平成 30 年度からは 12 団体となり、博物館の資料収集や整理、保存などの専門領域をはじめ、展示教育普及事業に至る活動を市民の会との協働で実施している。さらに、常設展示を補うミニ展示が様々なテーマのもとに各団体の活動として行われ、令和元年度では全 11 回に及ぶなど、その活動は多方面に展開しており、市民の会との協働は、引き続き博物館活動の軸となっている。
- ・毎年、博物館の開館記念日である 11 月 20 日前後に市民による調査研究活動の成果発表の場である「学びの収穫祭」を行い、各団体が口頭発表やポスター展示、ワークショップ等を企画・実施した。その結果、活動成果を一般来館者に発表するとともに、市民の会相互の理解を深めるなど、異なる専門分野間での情報交換により学びの発展につながっている。

【有識者意見】

- ・市民を巻き込んだ市民参加型の博物館活動は実施回数も多く、また活動の幅も多方面にわたっており、博物館の実践型活動の軸として継続発展するように努力してほしい。
- ・市民と博物館との協働を博物館活動の軸としている点は、当館が地域博物館として存在する大きな意味があり、評価したい。博物館は、「もの」と「ひと」との出会いの場と言われるが、より重要なのは「もの」を通して「ひと」と「ひと」とが会える場とすることであると考える。
- ・しかし、ボランティアの高齢化・固定化や登録者の減少が今後の課題であり、加えて会の存在や活動状況は一般の市民にほとんど知られていないものと思われる。「学びの収穫祭」等を通してウェブサイト等で積極的に活動を発信していくことなども必要であろう。

3-2 市民学芸員の活動の展開

【自己評価】

- ・市民学芸員は、平成 29 年度には追加募集を行い、全体で 54 名の登録となった。8 月の夏休み 2 日間で行うクイズラリーでは企画・設問設定・当日の運営を担当し、737 名がクイズに参加した。また、学習資料展でも、内容の検討、展示資料選定、展示の設営・撤収、期間中隔週末等に行うチャレンジ体験コーナー等、展示や事業の全般にわたり主体的に活動した。その他、星空観望会、歴史探訪など博物館事業への協力のほか、展示検討、ふるさといろはかるた、紙芝居、学習カード作成などのチームに分かれて自主的に活動し、活動総数は延べ 108 回、活動参加者数は延べ 909 人に及んだ。
- ・平成 30 年度は、47 名の方が前年度から更新継続され、引き続き、学習資料展の企画・準備と関連事業運営、クイズラリーの企画・運営、星空観望会補助等を実施した。また、有志により常設展示「自然・歴史展示室」の展示替えに向けての検討や一部キャプションなどの修正を行った。活動回数は延べ 109 回、活動参加者数は延べ 963 人に及んだ。
- ・令和元年度は、追加募集を行い、全体で 47 名の登録となった。活動については、前年度に引き続き学習資料展の企画・準備と関連事業運営、クイズラリーの企画・運営、星空観望会補助等を実施した。また、新たに『市民学芸員かわら版』制作チームができ、展示を行った。活動回数は延べ 121 回、活動参加者数は延べ 884 人に及んだ。

【有識者意見】

- ・「市民学芸員」の活動は学習資料展の企画・準備と関連事業運営、クイズラリー企画・運営、星空観望会の補助等多岐にわたり、当館の市民活動として定着している。今後もありがいを感じてもらえるよう、更に幅広い分野での協働を期待したい。
- ・「市民学芸員」の人数や活動の増加に伴い学芸員の負担が大きくなることも考えられるため、継続的な活動の方向性や体制づくりが望まれる。また、学芸員の人員不足を補うような活動になってはならないと考える。

4 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

4-1 資料整理及び展示、調査成果の公表

【自己評価】

- ・博物館収蔵資料点数は、平成 29 年度で 252,205 点（前年度比 4.2%増）、平成 30 年度で 256,046 点（前年度比 1.5%増）、令和元年度で 258,107 点（前年度比 0.8%増）となっており、3 か年では平均 2.2%増で推移している。
- ・資料整理については、市民協働等により実施され、例えば歴史分野においては、津久井郷土資料室に収蔵されていた文書等の膨大で多種にわたる紙資料の整理を市民協働で実施し、その成果の一部を平成 29 年度に開催した収蔵品展などで公開している。
- ・調査研究活動については、市民の会やその他、外部の研究者とともに市内外をフィールドとする調査を実施してその成果を『相模原市立博物館研究報告』に掲載しており、平成 29 年度に 5 件、平成 30 年度に 8 件、令和元年度に 9 件の調査研究成果を報告した。また、平成 30 年度と令和元年度に、考古資料の調査成果をまとめた報告書 2 冊（『大日野原遺跡資料調査報告書』、『津久井城跡資料調査報告書』）を刊行した。
- ・その他、新規の収集資料や調査研究成果については、エントランスや常設展示室内等で「ミニ展示」を実施し随時公開に取り組んでいる。

【有識者意見】

- ・一般的に、博物館活動の中では調査研究のための時間確保が難しいとされるが、調査研究は学芸活動の基本を支えるものであり、行政や管理者には是非理解を願いたい。学芸員の専門性を担保する上でも、学会への参加や報告が積極的にできる環境を整備することは重要である。
- ・増加する収蔵資料の整理作業を博物館と市民協働で実施することは効果的であるとともに、市民にとっても貴重な資料に接する良い機会となり、利点が多い。このような活動には若い世代にも参加してほしい。また、こうした協働作業や、各分野の学芸員が行った調査研究の成果、講演発表の内容などを簡単にパネルなどで紹介できる「ミニコーナー」の設置も考慮されたい。

4-2 様々なメディアを用いた情報発信の取組

【自己評価】

- ・博物館の広報活動では、広報さがみはらの掲載を基本としつつ、博物館のホームページや SNS (Twitter)、「相模原市立博物館の職員ブログ」を利用し、プラネタリウムの番組情報や混雑状況、イベント情報の発信や、天体・天文現象の写真や動画、博物館の日常の風景などの紹介を行った。
- ・博物館の事業を一覧できる資料として、「博物館イベントニュース」を四半期ごとに発行して周知を図った。

【有識者意見】

- ・広報への掲載は多くの人々に情報を発信できる効果的なメディアなので、多いに活用すべきだと思う。さらにコロナ禍にあっては、ホームページ、SNS、ブログ、動画等が特に情報発信の重要なツールとなっているが、コロナ終息後の博物館の取組としてもますます活躍する伝達手段と考えられる。
- ・現状でも様々なメディアを活用して広報活動を行っているので、あとは掲載内容の定期的な刷新を図ることで、より良い効果をあげられると思われる。